

第二節 昆虫

西 東 ①

5 恵庭市は石狩低地帯のほぼ中央部に位置し、西側は支笏湖の北にある恵庭岳（一二三〇¹⁾）が一番標高く、東から西に向かって漁川、ラルマナイ川、島松川などの河川が流れている。これ

2 して、「昆虫類はこれまでの文献等によると、北海道の特産種であるエゾチツチゼミ、ジョウザンシジミ、アイヌキンオサムシなどの生息も報告されている。」と記述を確認している。しかし、その元となった北海道営林局（一九九四）漁岳周辺森林生態系保護地域設定に関する森林総合調査報告書の昆虫の種リストは「この地域に分布することが確認されている種と、分布することが考えられる主な種類」と書かれており、石狩西部地域の無意根山や定山溪等、恵庭市に含まれない地域で確認されている昆虫をリストに加えてあり、恵庭市から正式な記録はない種と考えられるものを含んでいたもので、当該リストの掲載種は今回のとりまとめからは除外した。

10 幸い、市内中央部を流れる石狩川水系漁川につくられた漁川ダムでは、国土交通省が定期的に実施している河川水辺の国勢調査のダム湖版の対象地になっており、過去に三回の昆虫類調査が実施され記録が残されている。その結果をベースに、これまで恵庭市から文献等により記録された昆虫を追加して、この地域の昆虫相の概観を見てみることにしたい。

文献調査

20 文献調査の結果、恵庭市から二四目二四科二二四種の昆虫記録が確認された。さまざまな文献から拾った恵庭市から確認されている昆虫の記録種数である。¹⁾種名が確定されていない記録は除いてある。なお文献調査で北海道営林局（一九九六）の漁岳周辺森林生態系保護地域計画に、当地域の動物の生息状況と

20 主要な目の記録科数と種数は、カゲロウ目（²⁾蜉蝣目）五科八種、トンボ目（³⁾蜻蛉目）一〇科四七種、ハサミムシ目（⁴⁾革翅目）二科四種、カワゲラ目（⁵⁾セキ翅目）三科六種、バツタ目（⁶⁾直翅目）九科二五種、カメムシ目（⁷⁾半翅目）二八科一八三種、ヘビトンボ目二科二種、アミメカゲロウ目（⁸⁾脈翅目）三科八種、シリアゲムシ目（⁹⁾長翅目）一科一種、トビケラ目（¹⁰⁾毛翅目）二〇科九一種、チョウ目（¹¹⁾鱗翅目）二六科七八四種、ハエ目（¹²⁾双翅目）二五科一七二種、コウチュウ目（¹³⁾鞘翅目）六二科六五〇種、ハチ目（¹⁴⁾膜翅目）二八科一四三種となった。

この種数は恵庭市約二九五平方メートルのエリアに対して多いか少ないかといえば、解明率は高くない地域と判断される。おそらく、きちんと詳細な調査を積み上げていけば、この数倍の種数の昆虫

が恵庭市で記録されるに違いない。比較的、調査が進んでいる分類群の昆虫について、以下、グループごとに記述する。

蝶類

5 蝶類に関しては、石塚・高橋（一九七九）がアサギマダラを記録。そして、神田ほか（一九八二）の「北海道西部の蝶」の道内市町村の蝶類記録表で恵庭市からギンイチモンジセセリ、コチャバネセセリ、オオチャバネセセリ、ウスバシロチョウ、ヒメウスバシロチョウ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、モンキチョウ、エゾシロチョウ、ゴイシシジミ、ヒメシジミ、コヒョウモン、

10 ガシジミ、ミドリシジミ、ムモンアカシジミ、メスアカミドリシジミ、ルリシジミ、エゾスジグロシロチョウ、エゾヒメシロチョウ、スジグロシロチョウ、ツマキチョウ、ヒメシロチョウ、イチモンジセセリ、キバネセセリ、キマダラセセリ、コキマダラセセリ、ヒメキマダラセセリ、ミヤマセセリ、アカタテハ、アカマダラ、イチモンジチョウ、ウラギンヒョウモン、オオヒカゲ、キタテハ、クジャクチョウ、クモガタヒョウモン、サカハチチョウ、シロオビヒメヒカゲ、ツマジロウラジャノメ、ヒメアカタテハ、ヒメウラナミジャノメ、ミスジチョウ、ミドリヒョウモン、ヤマキマダラヒカゲ、ルリタテハの五八種が新たな記録種である。

15 ウを記録。西元（一九九四）は一九九一〜一九九二年の期間に恵庭市内で見られた蝶として八一種を報告しており、そのうちのアゲハ、オナガアゲハ、キアゲハ、アイノミドリシジミ、アカシジミ、アサマシジミ、ウスイロオナガシジミ、ウラキンシジミ、ウラゴマダラシジミ、ウラジロミドリシジミ、ウラナミアカシジミ、ウラムスジシジミ、エゾミドリシジミ、オオミドリシジミ、オナガシジミ、カバイロシジミ、カラスシジミ、コツバメ、ゴマシジミ、ジョウザンミドリシジミ、スギタニルリシジミ、ツバメシジミ、トラフシジミ、ハヤシミドリシジミ、ベニシジミ、ミズイロオナ

20 その中で注目すべき種としてはキタテハの盤尻の記録で、過去に北海道西部の記録は所々で確認されていたが、近年の記録はなく、北海道内から記録が途絶えたチョウと考えられる。あと、ツマジロウラジャノメのラルマナイ川の記録も石狩低地帯以西の記録は無く貴重な記録と考えられる。しかし、恵庭市郷土博物館に寄贈された西元達也氏の蝶類標本の中に、分布の証拠となる当該標本が残されていないことが残念である。その後も、原（一九九五）がキタアカシジミを、本間ほか（一九九七）がオオモンシロチョウを記録した。これらのチョウの記録の中で、アサマシジミに関しては国内希少野生動植物種に指定されており、古くは札幌市の記録もあり、恵庭市周辺の千歳市や安平町にも生息情報があったが、西元（一九九四）の一九九一〜一九九二年に記録した盤尻と神田（二〇一三）が報告した一九九〇年七月一日の柏木町

たのの詳細は不明である。

平成十二

第4章 動物

の記録が最後になっており、二〇〇〇年以降恵庭市から生息の情
報は途絶えており、恵庭市からは絶滅してしまった可能性が高い。
現時点での恵庭市のチョウ類の記録は九一種となっている。比
較的種類が確認されている市町村ではあるが、まだいくつかの種
が抜け落ちているので、今後調査により何種かの増加が予想され
る。

トンボ類

トンボ類に関しては長く恵庭市のトンボ記録をとりまとめられ
たことはなかったが、近年ようやくまとまった報文が発表された。
河川水辺の国勢調査の漁川ダム湖版（一九九六、二〇〇一、二〇
一五）では三回合わせて、アオイトトンボ、オツネイトンボ、キ
タイイトンボ、オゼイトトンボ、モノサシトンボ、カワトンボ、
オオルリボシヤンマ、モイワサナエ、コオニヤンマ、オニヤンマ、
コエゾトンボ、タカネトンボ、エゾトンボ、ヨツボシトンボ、シ
オカラトンボ、シオヤトンボ、ウスバキトンボ、キトンボ、マユ
タテアカネ、アキアカネ、ノシメトンボ、ミヤマアカネの二二種
のトンボを記録している。

橋部（二〇一六）は恵庭市牧場にある「えこりん村」のトンボ
類を調査し、三〇種のトンボを記録した。その中のエゾイトン
ボ、ルリイトンボ、アジアイイトンボ、オオイトトンボ、アオ
ヤンマ、ルリボシヤンマ、ギンヤンマ、コサナエ、オオヤマトン
ボ、コヤマトンボ、シヨウジョウトンボ、コノシメトンボ、ナツ

アカネ、マイコアカネの一四種のトンボが恵庭市から新たに記録
された種である。

広瀬（二〇一八）は恵庭市内ほぼ全域のトンボを一〇年間調査
し、その記録をとりまとめ四七種のトンボを報告した。それらの
うち、エゾアオイトトンボ、クロイトトンボ、セスジイトトンボ、
ムカシトンボ、マダラヤンマ、カラカネトンボ、オオトラフトン
ボ、モリトンボ、ヒメアカネ、リスアカネ、タイリクアカネの一
種が恵庭市から新たに記録された。

アオヤンマやシヨウジョウトンボなど近年道内で増えてきてい
る南から入ってきたトンボが恵庭市でも確認されているので、今
後のトンボ相の変化を注意深く調査していく必要があるだろう。

甲虫類

甲虫類に関しては、恵庭市でまとめられた記録は確認できな
かった。河川水辺の国勢調査の漁川ダム湖版（一九九六、二〇〇一、
二〇一五）で比較的多くの種が確認されているオサムシ科の記録
を見てみると、三回総計で一〇一種のオサムシ科甲虫が記録され
ている。その内訳はアオカタビロオサムシ、エゾマイマイカブリ、
イシカリクロナガオサムシ、キノカワゴミムシ、ツンベルグナガ
ゴミムシ、アトマルナガゴミムシ、コクロツヤヒラタゴミムシな
ど森林に生息する種、コホソクビゴミムシ、エゾマルクビゴミム
シ、アシミゾヒメヒラタゴミムシ、チシマミズギワゴミムシ、ド
ウイロミズギワゴミムシなど河畔や湿地に生息する種、キンナガ

第1編 自然・地勢

ゴミムシ、ゴミムシ、ヒメゴミムシ、ヒメケゴモクムシ、ナガマ
ルガタゴミムシなど荒地や草地に生息する種など、さまざまな環
境に適応したオサムシ科甲虫が確認されている。

それ以外のオサムシ科記録としては、古田（一九八三）が北海
道の固有種であるオオルリオサムシを、榎戸（一九九四）が裸地
に生息するエリザハンミョウを記録している。

佐々木ほか（一九九三）が北海道のカミキリムシ科の記録をま
とめ報告している。その中でトドマツカミキリ、カラカネハナカ
ミキリ、フタスジゴマフカミキリ、ゴマフカミキリ、カタシロゴ
マフカミキリ、ドイカミキリ、トゲバカミキリ、ニセビロウドカ
ミキリ、ビロウドカミキリ、ヒゲナガモブトカミキリ、ヒゲナ
ガカミキリ、ヒゲナガゴマフカミキリ、ヒメヒゲナガカミキリ、
カッコウカミキリ、サドチビアメイロカミキリ、オニグルミノキ
モンカイミキリ、ホンカミキリの一七種のカミキリムシを恵庭市
から記録している。河川水辺の国勢調査の漁川ダム湖版（一九九
六、二〇〇一、二〇一五）では、三回合わせて、ノコギリカミキ
リ、テツイロハナカミキリ、ヨツスジハナカミキリ、クロトラカ
ミキリ、アカガネカミキリ、ハンノキカミキリ、ジュウニキボシ
カミキリなど四六種のカミキリムシを確認している。それらの記
録の中に三種は既知の記録種であったのと、何かの手違いでリス
トに含まれた種と推測されるヨツスジトラカミキリが含まれてい
るので、それらを除いた四二種が追加される。

現時点での文献調査では、合計五九種のカミキリムシが恵庭市

から確認されている。カミキリムシ相としては本州以南に分布す
る種との共通性が高く、多くは道内に広く分布している種で占め
られている。今後の調査によって、さらに種数はかなり増えてい
くと考えられる。

トビケラ類

恵庭市の昆虫相で際立った分類群がトビケラ目だ。恵庭市在住
の伊藤富子氏によって精力的に調査が継続され、道内で最もトビ
ケラ相の解明が進んだ地域のひとつとなっている。伊藤ほか（二〇
〇〇）が一九八八年から二〇〇〇年までの一三年間恵庭市で調査
採集したトビケラ類をとりまとめた「北海道恵庭市のトビケラ相」
では、一〇二種のトビケラを恵庭市で確認したとしている。特に
注目すべき種として、日本初記録のアジアクサツミトビケラと北
海道初記録のカモヒゲナガトビケラが恵庭市から発見された。

一〇二種のうち未記載種を含め一六種が種未確定で種名が確定
したのは八六種で、それらの分布を見てみると、二三種（二七％）
が北海道以北に分布する種で、特にキタコヤマトビケラとエゾク
ロモントビケラはその時点で恵庭市が分布南端にあたる記録で
あったことを報告している。さらに、Ito & Kuhara (2009) は
ナガレヒゲナガトビケラ *Leptocerus fluminis* Ito and Kuhara, 2009 を、恵庭市漁川をタイプロカリティに新種記載している。

その他の昆虫はまだまだ解明率が低く、地域の特徴を示すデー

タは揃っていないのが現状である。現時点までに文献等で恵庭市から記録された昆虫については、巻末資料**図表1-4-1**に掲載した。今後、恵庭市のさらなる昆虫相の解明を期待したい。

5
.....

参考文献

[1] 北海道営林局（1996）漁岳周辺森林生態系保護地域計画、*Non*：1-30頁

[2] 北海道森林技術センター（1994）漁岳周辺森林生態系保護地域設定に関する森林総合調査報告書、*Non*：1-124頁

[3] 石塚能規・高橋正敏（1979）石狩支庁のアサギマダラの記録2題、*jezoensis* 6：90-91頁

[4] 神田正五・北山勝弘・荒木哲（1982）北海道西部の蝶—その分布と変異へのアプローチ—、*GLACIALIS* 9：1-100頁

[5] 永盛拓行（1985）北海道におけるナミヒョウモンとコヒョウモンの越冬態、月刊むし171：8-14頁

[6] 西元達也（1994）恵庭市内で見られた蝶 1991-1992、みずなら3：35-36頁

[7] 原 俊二（1995）気門周囲赤褐色斑のないキタアカシジミ終齢幼虫、*COENONYMPHA* 40：808頁

[8] 本間定利・森 一弘・寒沢正明・川田光政・神田正五（1997）北海道におけるオオモンシロチョウの発生状況（1997年）、*jezoensis* 24：21-23頁

[9] 神田正五（2013）北海道西部、安平町早来地域のアサマシジミ、*Butterflies (F)* 61：22-27頁

[10] 国土交通省河川局（1996）河川水辺の国勢調査〔ダム湖版 漁川ダム〕陸生昆虫

[11] 国土交通省河川局（2001）河川水辺の国勢調査〔ダム湖版 漁川ダム〕陸生昆虫

[12] 国土交通省河川局（2015）河川水辺の国勢調査〔ダム湖版 漁川ダム〕陸生昆虫

[13] 橋部佳紀（2016）恵庭市「えこりん村」のトンボ類、北海道トンボ研究会報27：8-12頁

[14] 広瀬良宏（2018）恵庭市のトンボ、北海道トンボ研究会報29：5-9頁

[15] 古田公人（1983）石狩地方のオサムシ類の群集構造と林相との関係、森林文化研究4：61-68頁

[16] 榎戸良裕（1994）北海道のハンミョウ類の記録（第4報）、*jezoensis* 21：61-62頁

[17] 佐々木恵一・長尾康・鈴木敏春（1993）北海道のカミキリ科の分布について、*jezoensis* 20：49-163頁

[18] 伊藤富子・大川あゆ子・久原直利（2000）北海道恵庭市のトビケラ相、恵庭市郷土資料館年報6：16-46頁

[19] Ito, T.・Kuhara, N. (2009) A new species of the genus *Leptcerus* (Trichoptera, Lepticeridae) from Japan, *Limnology* 10：25-31頁

・後藤千枝・早川博文・筒井等（1986）北海道においてフェロモンとラップに採集されたハスモンヨトウについて、北日本病害虫研

究会年報37：147頁

・エヌセス環境調査株式会社（2009）国指定史跡カリンバ遺跡環境調査：17-19頁

・大野雅英（2008）ヒラテナガクチキを北海道で採集、月刊むし446：42頁

5
・川田光政（1994）コマダラハスジウムシの採集並びに観察記録、*jezoensis* 21：51-54頁

・堀 繁久（1991）北海道におけるヒメオオクワガタの分布と生態について、*jezoensis* 18：95-99頁

10
・森 正人・北山 昭（1993）図説日本のゲンゴロウ、図鑑：217頁

5
・川田光政（1994）コマダラハスジウムシの採集並びに観察記録、*jezoensis* 21：51-54頁

10
・堀 繁久（1991）北海道におけるヒメオオクワガタの分布と生態について、*jezoensis* 18：95-99頁

15
・森 正人・北山 昭（1993）図説日本のゲンゴロウ、図鑑：217頁